

和歌山県

紀州備長炭生産振興計画



2026
年度

(R8)



2030
年度

(R12)

和歌山県紀州備長炭生産振興計画 一 目次 一

| | | |
|------------------|-------|-----|
| I はじめに | | P3 |
| II 計画期間 | | P3 |
| III 数値目標 | | P3 |
| IV 紀州備長炭の生産状況と課題 | | P4 |
| V 紀州備長炭の具体的な振興方策 | | P10 |
| VIII 整理表 | | P11 |

I はじめに

和歌山県の特用林産物は、紀州備長炭やサカキ、シキミ、コウヤマキ等の花木類、シイタケ等のキノコ類、イタドリやワサビ等の山菜類など多くの品目が生産されています。

なかでも、全国的に知名度の高い紀州備長炭は、和歌山県の県木であるウバメガシを主な原木とする産業であり、江戸時代から400年以上続く和歌山県無形文化財です。

また、紀州備長炭は、県内の林業産出額のうち約18%※を占めています。一方、全国では、林業産出額のうち薪炭生産の占める割合は約0.8%※となっており、和歌山県の林業において紀州備長炭が重要な産業であることがわかります。

紀州備長炭は東京、大阪、名古屋等の飲食店をはじめ、全国からの需要が高い一方で、その需要に十分に対応できていない状況です。その背景としては、後継者の育成体制の不足、原木資源の大径化や獣害等による資源減少、品質管理体制の不足などの課題があります。

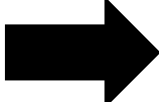
こうした課題解決に向けて、県では、「紀州備長炭生産振興計画」を策定し、関係機関や団体と連携して、本県の特用林産物の振興を図ります。

※ 農林水産省統計、令和5年林業産出額

II 計画期間

2026年度(令和8年度)から2030年度(令和12年度)までの5年間とします。

III 数値目標

| 現状値 | | | 目標値(2030年度) | |
|------|---------|---|-------------|---------|
| 生産量 | 871 t |  | 生産量 | 935 t |
| 生産者数 | 165人 | | 生産者数 | 170人 |
| 生産性 | 5.3 t/人 | | 生産性 | 5.5 t/人 |

※ 現状値は、2024年(令和6年) 特用林産物生産統計調査による

※ 生産性は、生産者数あたりの生産量とする

IV 紀州備長炭の生産状況と課題

1 生産状況

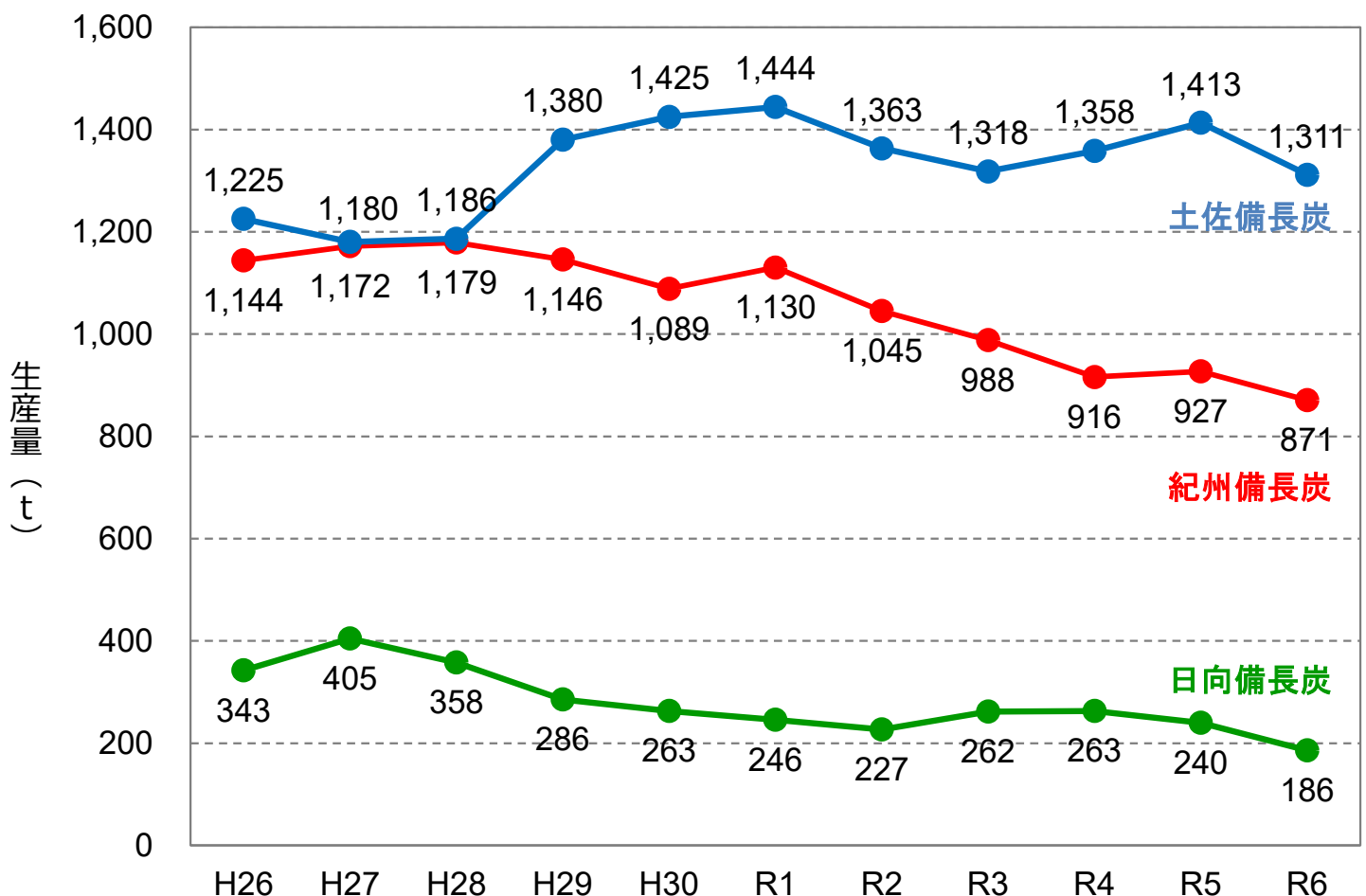
(1) 全国の生産状況

全国の備長炭(白炭)の生産状況は、【表1】および【図1】のとおりです。代表的な備長炭の生産地は、和歌山県(紀州備長炭)、高知県(土佐備長炭)、宮崎県(日向備長炭)であり、直近の令和6年は、3県とも生産量が減少しています。

| 都道府県 | | 令和6年次 | | | | | 備考 |
|------|------|--------|--------|---------|-------|-----------|-------|
| | | 生産量(t) | シェア(%) | 従事者数(人) | 窯数(基) | 販売額※(百万円) | |
| 1 | 高知県 | 1,311 | 49.7 | 90 | 85 | 1,689 | 土佐備長炭 |
| 2 | 和歌山県 | 871 | 33.0 | 165 | 158 | 1,227 | 紀州備長炭 |
| 3 | 宮崎県 | 186 | 7.1 | 59 | 64 | 252 | 日向備長炭 |
| 全国合計 | | 2,637 | | 482 | 389 | | |

※チャコールタイムス都燃商相場価格調査R6.3月期 最上位品目で試算

【表1】 都道府県別白炭(備長炭)の生産量(上位3県)

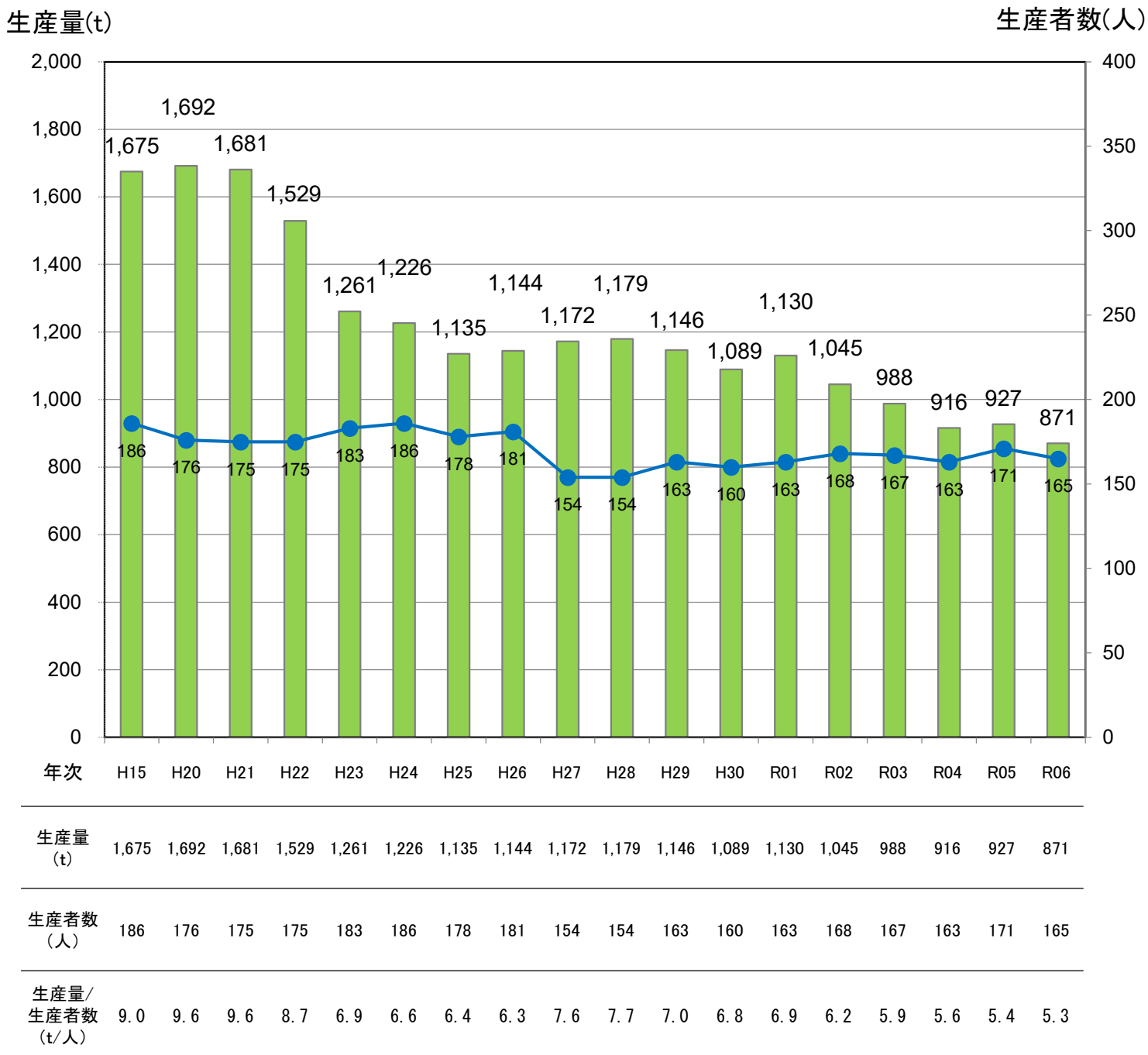


【図1】 都道府県別白炭(備長炭)の生産量推移(上位3県)

(2) 和歌山県の生産状況

和歌山県の紀州備長炭の生産量と生産者数の推移は、【図2】のとおりです。生産量は、平成15年から、令和6年にかけて、804tの減少(48%減)となっています。一方で、従事者数は、H15年から令和6年にかけて、21名の減少(11%減)となっています。生産者あたりの生産量は、年々減少傾向にあります。

令和6年次における紀州備長炭の市町村別生産量と生産者数は、【表2】のとおりです。日高川町、田辺市、みなべ町が生産の中心となっており、全体の約80%の生産量です。



【図2】 紀州備長炭の生産量と生産者数の推移

| 市町村 | | 令和6年次 | | 市町村 | | 令和6年次 | |
|-----|-------|--------|---------|-----|------|--------|---------|
| | | 生産量(t) | 生産者数(人) | | | 生産量(t) | 生産者数(人) |
| 1 | 日高川町 | 456.5 | 57 | 9 | 白浜町 | 14.0 | 1 |
| 2 | 田辺市 | 141.4 | 46 | 10 | 新宮市 | 10.8 | 1 |
| 3 | みなべ町 | 101.4 | 24 | 11 | 由良町 | 10.1 | 2 |
| 4 | 印南町 | 34.8 | 8 | 12 | 古座川町 | 9.8 | 2 |
| 5 | 和歌山市 | 26.8 | 5 | 13 | すさみ町 | 3.5 | 1 |
| 6 | 那智勝浦町 | 26.0 | 8 | 14 | 上富田町 | 3.1 | 1 |
| 7 | 串本町 | 16.0 | 5 | 15 | 太地町 | 0.9 | 1 |
| 8 | 紀の川市 | 15.5 | 3 | 県全体 | | 870.5 | 165 |

【表2】 紀州備長炭の市町村別生産量と生産者数(令和6年次)

2 課題と背景

(1) 人材育成について

これまで、新規製炭者は熟練の製炭者の指導のもと、数年以上かけて伝統的な製炭技術を磨いて、独り立ちしていました。しかし、近年は十分な指導が受けられないまま製炭業に就く新規製炭者が多く、安全防具などの普及も十分には進んでおらず、山づくりには欠かせない紀州鉦を持たない者もいます。

また、新規参入の希望者が問い合わせ等するための窓口がないなど、新規製炭者の受け入れ体制が十分ではない状況です。

未熟な技術で製炭した紀州備長炭が市場に流通した場合、紀州備長炭のブランド価値の低下が危惧されています。

(2) 原木資源について

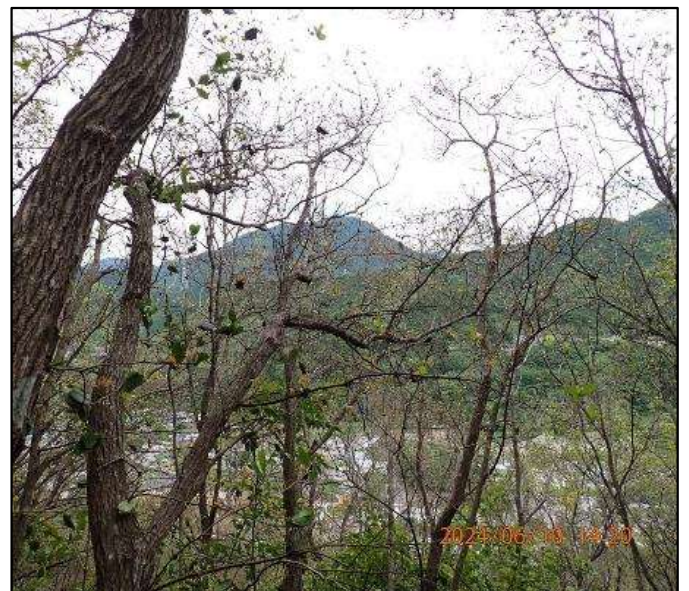
原木資源は、搬出しやすいウバメガシ原木林が減少し、奥地にある原木林は大径化しています。また、山林所有者によって管理されたウバメガシ資源林も減少しています。大径化した原木林は、既存の択伐技術では対応できず、循環利用していくための施業方法が明らかとなっていない状況にあります。

病虫害の被害としては、2009年から紀中地域及び紀南地域において、カシノナガキクイムシによる被害を受けています。ウバメガシは他の樹種に比較して枯れにくく、穿孔後の原木についても、炭の質に影響しません。しかしながら、近年は過去に穿孔を受けたウバメガシ原木は、心材部分の腐朽が進み、原木として使えない事例がみられます。そのほか、令和6年度には蛾による葉の食害が確認されています。

獣害被害としては、シカによる食害は紀南地域から日高地域にまで拡大しています。択伐施業を実施することで、残った株の枯死を防ぐ効果は期待できますが、萌芽枝の食害から萌芽更新が進まないため、ウバメガシ林の喪失が危ぶまれます。



【写真1】 カシノナガキクイムシ穿孔によるフラス



【写真2】 蛾によるウバメガシの葉の食害

(3) やまづくり技術について

紀州備長炭は、択伐技術によって、古くから原木林の循環利用が図られてきました。しかし、過去に択伐施業を十分に実施していない時期が続いたことから、県では2009年度(平成21年度)から択伐技術をはじめとする製炭技術の研修会「やまづくり塾」を開催しています。また、紀州備長炭原木林の「択伐」技術マニュアル(以下、「択伐マニュアル」という。)を作成し、択伐技術の普及啓発を行っています。その結果、製炭者に対して、原木林の循環利用についての理解と、択伐技術をはじめとする「やまづくり」の技術向上は進みました。一方で、研修会に一度も参加したことのない新規製炭者も存在し、技術普及は十分ではない状況です。



択伐技術



択伐技術



簡易搬出技術



簡易搬出技術



簡易搬出技術



炭窯構築技術

【写真3】 紀州備長炭「やまづくり塾」の開催の様子

(4) 品質管理と製炭技術について

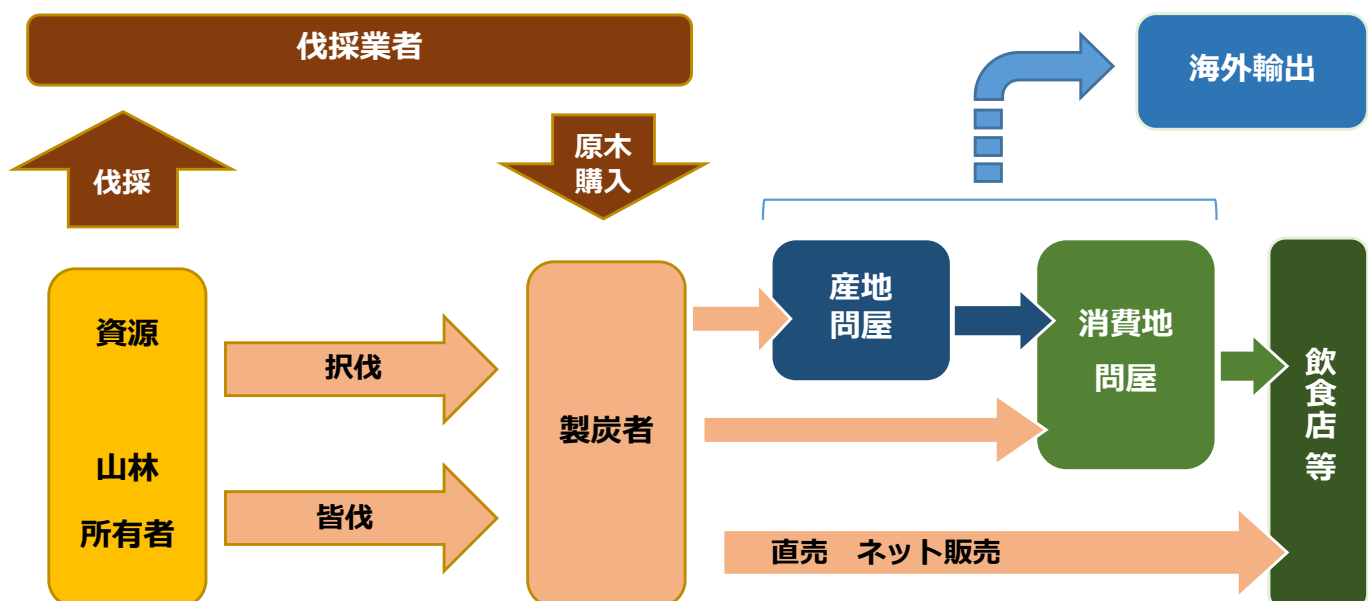
これまで、紀州備長炭の品質管理は、県内の炭問屋(産地問屋)が担っており、製炭者の多くが県内の炭問屋に出荷してきました。しかし、近年は、高い需要を背景に、産地問屋への出荷以外にも様々な出荷形態がみられます。

結果として、これまで産地問屋に炭を出荷することで行われていた、炭の品質管理の機能が薄れており、品質の悪い炭が市場に流通した場合、紀州備長炭のブランド価値の低下が危惧されています。

また、伝統的な製炭技術「はね木」は、窯出し後の熱い炭窯に原木を入れることで、製炭効率だけでなく、炭の収品率や品質も向上すると言われていています。しかし、技術的な難度の高さ等を背景に、新規製炭者の多くが指導を受けていない状況です。効率の悪い製炭方法をひとつの要因として、生産者数当たりの製炭量は年々減少しています。



【写真4】 伝統的な製炭技術「はね木」



【図3】 紀州備長炭の現在の産業構造

1 具体的な振興方策

(1) 人材育成について

伝統的な製炭技術の継承に向けて、市町村や関係機関と連携して、新規製炭者の受け入れ体制・育成体制の構築を図ります。

また、生産に必要な設備投資や、普及が十分に進んでいない安全防具等の購入を支援し、新規参入者の増加につなげます。

(2) 原木資源について

大径化したウバメガシ原木林を循環利用していくため、伐採方法や伐採後の必要な施業を踏まえた施業方法の確立に向けて、研究機関と連携して取り組みます。

また、いままで原木として十分に利用されてこなかったカシ類について、研修会等を通じてカシ類の利用の普及と製炭技術の向上を目指します。

病虫害の被害軽減に向けて、原木林の適期の伐採による更新について普及啓発します。また、病虫害や獣害の被害状況について継続的に巡視し、研究関係機関と連携して被害の予防や低減に向けて必要な取り組みを行います。

紀州備長炭原木林の 「択伐」技術マニュアル



和歌山県 林業振興課

(3) やまづくり技術について

製炭者や山林所有者等に対して、原木林の循環利用の利点等について普及啓発を行い、山林の適切な保育管理を促進します。

また、製炭者に対して、やまづくり塾をはじめとする研修会を開催し、択伐マニュアルを活用した原木林の循環利用技術の普及を継続的に実施します。開催にあたっては、新規製炭者が参加しやすいように、個々の能力や地域の実態に応じて、きめ細かな研修を実施していきます。

(4) 品質管理と製炭技術について

紀州備長炭のブランド保護のため、炭の品質管理を徹底するための体制づくりを関係機関と連携して支援します。また、紀州備長炭の選別講習会等を継続的に開催します。

生産効率及び品質の向上に向けて、「はね木」などをはじめとする伝統的な製炭技術についての研修会を開催し、生産量の増加につなげます。

| 振興方策 | 課題と背景 | 振興方策(要約) |
|------------------------------|--|--|
| (1) 人材育成 について | <p>十分な指導が受けられないまま製炭業に就く新規製炭者が多く、安全防具などの普及も十分に進んでいません。</p> <p>未熟な技術で製炭した紀州備長炭が市場に流通した場合、紀州備長炭のブランド価値の低下が危惧されています。</p> | <p>市町村や関係機関と連携して、新規製炭者の受け入れ体制・育成体制の構築を図ります。</p> <p>また、生産に必要な設備投資や、普及が十分に進んでいない安全防具等の購入を支援します。</p> |
| (2) 原木資源 について | <p>搬出しやすい原木林が減少し、奥地にある原木林は大径化しています。大径化した原木林は、既存の択伐技術では対応できない状況です。</p> <p>病虫害の被害としては、過去に穿孔を受けたウバメガシ原木は、心材部分の腐朽が進み、原木として使えない事例がみられます。</p> <p>獣害被害としては、シカによる食害は紀南地域から日高地域にまで拡大しています。萌芽枝の食害から萌芽更新が進まないため、ウバメガシ林の喪失が危ぶまれます。</p> | <p>大径化したウバメガシ原木林を循環利用していくための施業方法の確立に向けて、研究機関と連携して取り組みます。</p> <p>また、研修会等を通じてカシ類の利用の普及と製炭技術の向上を目指します。</p> <p>病虫害の被害軽減に向けて、適期の伐採を普及啓発します。また、病虫害や獣害の被害状況について継続的に巡視し、被害の予防や低減に取り組みます。</p> |
| (3) やまづくり 技術につ いて | <p>県では択伐技術をはじめとする製炭技術の研修会「やまづくり塾」を開催しています。また、「択伐マニュアル」を作成し、択伐技術の普及啓発を行っています。しかし、研修会に一度も参加したことのない新規製炭者も存在し、技術普及は十分ではない状況です。</p> | <p>原木林の循環利用について普及啓発を行い、山林の適切な保育管理を促進します。</p> <p>また、研修会を開催し、択伐マニュアルを活用した原木林の循環利用技術の普及を継続的に実施します。</p> <p>新規製炭者の個々の能力や地域の実態に応じて、きめ細かな研修を実施していきます。</p> |
| (4) 品質管理と 製炭技術 について | <p>県内における炭の品質管理の機能が薄れており、品質の悪い炭が市場に流通した場合、紀州備長炭のブランド価値の低下が危惧されています。</p> <p>また、伝統的な製炭技術「はね木」は、製炭効率だけでなく、炭の収品率や品質も向上すると言われてしています。しかし、技術的な難度の高さ等を背景に、新規製炭者の多くが指導を受けていない状況です。</p> | <p>紀州備長炭の品質管理を徹底するための体制づくりを支援します。また、選別講習会等を継続的に開催します。</p> <p>生産効率及び品質の向上に向けて、「はね木」などをはじめとする伝統的な製炭技術についての研修会を開催し、生産量の増加につなげます。</p> |